

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームいきいき モクレン	評価実施年月日	平成21年9月1日～9月30日
評価実施構成員氏名	大野由理枝・石井大暁・宮下昌子・櫻井めぐみ・村越舞子・井上貴暁・佐藤美里		
記録者氏名	大野 由理枝	記録年月日	平成21年9月30日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>ホーム理念・ケア理念はいきいき独自のものである。地域密着型サービスへ移行後に、地域に根ざしたという文言を追加し、「その人らしく生きる地域に根ざした安心した暮らし」とうたっている。また、いきいき五訓をつくり、理念と共に支援の柱となるようにしている。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>毎朝の送り時に理念を読み上げスタッフの意識を統一すると共に、理念に沿ったサービスが提供されたか一日の入居者の様子報告を管理者に行い、より理念が実践されるよう話し合っている。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>ユニット内の共用部にも掲示して来訪された家族の方にも見やすいよう明示している。運営推進会議への参加をお願いしたり、定期的にホームの新聞を地域に向けて発行したり、ホームの行事に参加していただいているが、理念の浸透に十分とはいえない。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>入居者と散歩に出かけた時、近所の方と出会ったら笑顔で挨拶している。イベントの時はボランティアとして町内会の方に協力をお願いし近所の商店には入居者が立ち寄った際、報告や見守りをお願いしている。が近所の家の方達との交流は多いとはいえない。</p>	○	イベントや行事の告知ポスターを貼る場所を増やしたり近所にビラを配りどんなホームか知ってもらい来訪してもらう機会を作っていく。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>町内会に加入。町内会のお祭り等には、参加するようにしている。行事時には、町内会へボランティアを依頼したり、ポスター等を貼り参加を呼びかけている。定期的にそれらの様子等も踏まえ、新聞を発行し回覧して頂いている。</p>		
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>町内会の方々と「認知症に関する勉強会等ができてもいいよね」等のお話が出てきたり始めているが、まだ実現には至っていない。</p>	○	地域(町内会)に向けての説明会や講演会の開催などでより多くの方に認知症を知っていただく機会を作っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>職員の交代もあり、新入職員は特に、実施の意義をしっかりと理解できているとは言い難い。また評価後の具体的な改善点についても、再評価は半年後の自己評価表記入時であるため、意識としてはまだまだ薄い傾向が見られる。</p>	○	<p>新スタッフも入ったので、改めて全職員が理解できるように自己評価、外部評価の必要性などを指導していく。自己評価については、スタッフ1人1人が自覚すると共に、改善点を検討する機会を設けて、日々取り組んでいけるようにしていきたい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議を開催時は、地域の方、市町村の職員、入居者様とご家族様に参加を依頼し、事業所の状況を説明し理解して頂いている。その上で、いろいろとご意見を頂き、地域連携の部分等、すぐに実践できそうなものに関しては取り入れさせて頂いている。</p>	○	<p>定期的な運営推進会議の開催。グループホームや認知症に対する理解を深めて頂くためにも、いろいろな形で情報の提供や公開をおこない、ご家族様や地域の方々からも意見を頂戴したい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>実践者研修の実習受入や、見学に関して、依頼・問い合わせがあれば都度対応している。特に実践者研修などでは、実習生からも率直な感想・意見をもらい、必要なものはホーム全体で周知しサービスに活かすようにしている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>ご家族が遠方、配偶者が高齢と言うことで2名の方が成年後見制度を活用している。がスタッフ間の理解力はまだたりない。</p>	○	<p>外部研修や内部勉強会にて制度について学ぶ機会を作る。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>業務向上委員会を中心に日々のケアの中で言葉や態度などスタッフが認識し改め直すようアンケートをとったり、統計をとり意識付けを行なっている。防止マニュアル作成中。日々のケアの中では、細かな身体的変化等に注意し、報告・記録に残すようにしている。</p>	○	<p>事業所内でも馴れによる意識の低下が無い様に定期的な話し合いや、自己評価などを行なう。更には、お互いに相談できる職場環境を保ち、虐待の芽が発生しないように努める。マニュアル完成後、勉強会の開催を予定。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>入居前に口頭と書面にてしっかりと説明し、理解・納得をいただいている。契約後も、必要が生じれば説明をし同意を頂くようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者の様子から不満や苦情がある時には一対一で外出する機会を作ったり話を する時間を作るようにしユニットスタッフに言えない時には事務所スタッフなどと会話 が出来るよう不満を発散できる時間を設ける配慮をしている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	家族への手紙での近況報告や新聞による報告をしている。又、毎日何を食べている かご家族に把握してもらう為、献立も一緒に送付し好評を得ている。面会に来た時 には日々の様子、変化など最近の様子を報告している。 受診が必要な体調不良やけが等は、すぐに電話等で連絡を取っている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	スタッフは日頃からご家族様来訪時に気軽に話していただけるよう努めている。意見 箱や苦情ノートを用意し、自由記述して頂けるようにしている。また外部の苦情対応 機関を明記したポスター等も掲示している。	○	しばらく滞っているが、家族会等を開催し意見交換が出来る環境を継続 していきたい。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	半年に一度の職員個人面談や、ユニット会議、責任者会議等で提案や意見を出して もらっている。更には、毎月福祉部会議(運営会議)を行ない、必要なものは早急に検 討するようにしている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	事前にわかっているものに関しては前もって、緊急時には、3ユニットで協力しながら 人員を確保、止むを得ず、残業や公休の振替出勤という形で勤務調整を行なうことも ある。入居者の日々の生活の対応に不備がないよう、また定められた人員基準をき ちんと満たすように努めている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職者が多く、止むを得ずそれに伴う職員の交代・異動も発生している。入居者様へ の影響は最小限に抑えられるよう、馴染みの職員が新職員と共に入居者様との関わり を持ち、なるべく自然な形で受け入れて頂けるよう配慮している。	○	安心して長く働ける職場となるべく、勤務体制や職場環境をしっかりと見極 めていく必要がある。その中で、サービスの質の維持・向上のため異動 は今後もありうることである。異動のことも考慮して、普段から他ユニッ トとの交流を多く持ち、どの職員も馴染みの関係を築くことが出来、安心感 が持って頂けるよう関わっていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>外部研修等も積極的に参加を促し、個々のスキルアップの機会を作っている。その内容によっては、管理者・責任者で受講職員を選出し、その時必要な技術・知識が適時得られるように努めている。また、毎月「自己アセスメントシート」にて反省点や自分のケア目標を管理者へ提出、コメント後に返却している。</p>	<p>○</p> <p>内部の研修が少ない状況。 10月から定期的に内部の研修会を行なう予定。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>他のグループホームと交換研修の機会を持っている。また、管理者・計画作成担当者は定期的に合同勉強会を行いスキルアップできるよう努めている。</p>	<p>○</p> <p>今後は職員参加の合同勉強会等もできるように検討していきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員の休憩場所としても使えるよう、事務所を移動し多目的室に改装。職員の入れ替わり等あり、うまく休憩が取れていないのが現状だが、なるべくお互いに声を掛け休憩を取れるようにし始めている。また、管理者、責任者からも表情を見ながら声を掛けたり、ストレスを溜めないように配慮している。</p>	<p>○</p> <p>休憩できる場所が確保されたので今後はうまく活用していきたい。 また、職員同士で色々話し合える関係を作り、そこでもストレスの軽減につながるようにしていきたい。場合によっては、専門家によるメンタルケアの導入も必要。業務向上への具体的な相談、指導、アドバイス。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>明確になった反省点に対し、具体的な改善方法や職員のメンタル部分まで何らかのアドバイスが出来ることで、介護現場での職員の成功体験が増え、ひいてはそれが自信や向上心に繋がると考え、自己アセスメントシート等を導入している。</p>	<p>○</p> <p>職員の努力や実績に応じてステップアップが可能な組織体制作りが、運営側の今後の目標と考えている。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>初回相談後、必ず事前訪問や見学頂く機会を作り、管理者・計画作成担当者が直接ご本人とお会いするようにしている。その中で、可能な限りご本人とお話し、少しでも安心感を持って頂けるよう配慮している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>初回相談後、見学も含めてお話できる機会を持つようにしている。その際、ご家族が抱えている不安や思いをまず伺い、その上でグループホームについて納得・理解が得られるまでご説明をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時、身体状況や認知症状等を伺い、さらには各関係機関から情報が得られる場合にはそれも参考にしながら、入居が最善かどうかを検討している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	短時間の見学から始め、体験利用的に一緒に昼食を食べたりお茶を飲みながら、職員や他入居者様とふれあい、ホームやユニットの雰囲気を知って頂く機会を作るよう対応している。またご家族様には、極力ご本人様へ入居の意向を話して頂けるよう促している。 入居が決まった際も、自宅で今まで使っていた馴染みの物や家具を用意してもらったり又御家族の来訪を多くしてもらい本人のストレスが最小限ですむよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	それぞれに出来る仕事を見極め、一緒にしてもらっている。昔のことを教えてもらったりお手伝いをしてもらった時に限らず、必ず「ありがとう」と感謝の気持ちを表すようにしている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	来訪の機会を増やしてもらう為、イベントの参加の呼びかけや定期的な外出支援を御家族にもしてもらっている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族様が来訪した際は、日々のホームの様子を報告しご本人様が家族に希望している事があつたら職員が間に入り、その希望が叶うようご家族様に可能な範囲のことを相談している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族様に協力してもらい自宅へ遊びに行ったり馴染みの場所へ出かける機会を作っている。又、遠方や来訪が難しいとき等はこちらから手紙や電話をして関係が途切れないようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	人間関係を把握し、入居者様同士だけで難しい部分には、スタッフが間に入り円滑に時間と空間を共有できるよう配慮しているが、まだまだ不十分なところがある。	○	ADLの低下による入居者同士の関係の変化を把握し職員の関わり方も変化させていく。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	終了した方がいないので解答できないが、その後も良いお付き合いをしていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	不満や希望がうまく表現できず、表情やしぐさなどで様子がいつもと違う時はアセスメントを取りカンファレンスで本人の希望や意思をくみ取りかなえられる様配慮している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にバックグラウンドシート等の記入をお願いしている。ご家族様・以前利用していたケアマネージャー・ヘルパーなどに話を聞き生活の様子やこれまでの経過を把握するように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	各自で個人の記録を確認、さらに職員間の報告・連絡・相談により把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日々のアセスメントやカンファレンスで本人の希望や今現在の課題を汲み取り、ご家族様の意見等も踏まえてケアプランを作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の見直しはおおむね期間毎に行っている。期間中に生じた変化への対応は毎朝の申し送りや往診時、家族の来訪時に話し合っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に記入し、毎朝の申し送りや月に一度の会議等において共有した情報に基づきケアプランの見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	画一的な支援方法ではなく、ご本人様やご家族様の状況・要望に合わせ、柔軟に応じられるよう心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	町内会や消防署と協力して避難訓練を行っている。又、文化の日を中心に郵便局などへ、作品の展示を依頼している。その他、民謡・生け花のボランティアを招いて趣味的活動を行っている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他のサービス事業者(福祉用具・オムツサービス)と情報交換を行い、いつでもサービスを利用できるよう支援している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	今まで地域包括支援センターとの協働したことはない。	○	運営推進会議などを利用し、地域包括支援センターの方達と協働していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49	<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	住み替えに至るまで家族や本人と十分に話し合い、住み替えのメリット、デメリットも説明するように努めている。入居していた期間での生活の様子等は詳しく情報提供し、退居後に関わるケア関係者とは情報交換を密に行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	言葉掛けの仕方や記録の取扱いについて、気が付いた事があれば管理者やユニット責任者より都度改善する為の働きかけがある。スタッフの言葉遣いがきつくなっていることがある。	○	プライバシー保護、尊厳を守るための、接遇についての勉強会や研修への参加。記録等、取扱いに関してのルールを明確にする。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	食事など、生活の場面で本人の希望を優先できるように接することを心がけている。状況や他者との関係から必ずしも希望に添えないこともある。	○	出来るだけ本人の希望に添えるよう、常に心がけていきたい。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	その人のペースを守って支援することを心がけているが、転倒の危険等安全への配慮を重視してやむを得ず手を出しすぎてしまう事がある。	○	転倒などのリスクを見極めながら、支援していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	基本的には本人が選んだ衣類を着用している。移動美容室や地域の美容室など、本人行きつけや希望の理美容店を利用している。		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	食事の好き嫌いを尋ねスタッフ間で情報共有している。盛り付けや調理、片づけを一緒に行っている。行事の際には見た目や内容に配慮した行事食を都度用意している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	嗜好品を用意して希望があれば提供できるよう準備している。オヤツ提供時、本人の好みを聞いたりあらかじめ配慮して提供している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を使用して、パターンの把握をしている。昼間と夜間で使用するパットを変えたり、パット使用者へ日中は外しても問題ないことを説明して使わないようにするなど、その人の力に合わせた排泄支援をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一人一人の入浴希望の時間帯や頻度に合わせて入浴支援を行っている。希望がある場合は出来るだけ優先して入浴してもらっている。	○	入浴を嫌がる方もいるので、シャワー浴、足浴等、一つの方法にこだわらず、色々な方法を試して行きたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	無理に入床を促したりはせず、疲労の度合いによって昼夜問わず休息を促す等、一人一人に合わせた支援を行っている。リビングに長いすを用意するなどして、居室以外でも休める環境を作っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	音楽鑑賞、工作、手芸、外出等を日頃から行っている。ゴミ捨てや食器拭き等をその人の意欲や能力に合わせて一緒に行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	手元に現金が欲しい方には、家族と相談し所持してもらい買い物にもスタッフと出掛けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩・ドライブ・日光浴など、戸外へ出るよう働きかけをしているが日によってあるいは人によっては何日も屋内で過ごしている人もいる。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	入居者の希望や季節に合わせて外出支援を行っている。本人の希望があれば御家族ともいつでも外出できる。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者様から希望があるときはいつでも電話が出来る。一ヶ月に一回、家族宛の手紙に入居者からのコメントを書いたりもしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族様来訪時、一緒に食事をして頂いたり、気軽に声を掛けて頂けるよう、話をする機会を多く設けている。入居者の知人等であればいつでも訪問できるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はしていない。内部で委員会を設立し、活動を始めている。	○	ケア内容を明確にするためにも、ケース記録へ記載していきたい。また、身体拘束の具体的な行為を全職員が理解していくため、マニュアルを作成し、資料の配布や勉強会の開催を行なう予定。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室の施錠は個人に任せている。玄関は、日中は鍵をかけず、自由に入出入りすることが出来る。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	スタッフ同士で声を掛け合い、入居者の行動を把握するようにしている。夜間帯は転倒などに気をつけ見守りをしている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物は夜間帯のみ一定の場所に保管している。日中は使えばなしにせず、都度片付けている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故報告書、ヒヤリハットを基にカンファレンスで一人一人の状態に応じた事故防止を話し合っている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救命講習は定期的に全職員が受けているが、全職員が理解しているとはいえない。	○	勉強会、カンファレンス等で確認しているが今後も定期的に確認していき、実技を伴う訓練も行い万が一の緊急時に備えておく。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	各ユニットに防災管理者を置き、定期的な避難訓練を行っている。車椅子を使用する方は参加せず自力歩行可能な方のみ参加している。	○	車椅子の方等にも対応できるように訓練を行なっていく必要がある。緊急避難用に非常食等持出袋を用意する。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	起こり得るリスクは随時御家族に説明を行い対応策についても話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	変化や異変の発見に気付いた時にはスタッフ同士で確認し、往診時ドクターに報告し急変の時にも師長と連絡が取れるようになっている。往診や看護師のバイタルチェック以外にも、週二回時間を決めてバイタルチェックをしている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方された薬の目的、成分、副作用などについては担当医とカンファで確認・相談し全スタッフが把握している。又、すぐに確認できるよう主な名称・成分・目的を記入してあるファイルをスタッフが確認できるよう目に付く場所に置いてある。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	毎日のカンファで報告し、水分補給や運動を促す、食事では繊維質の物を取り入れる、又下剤等ドクターと相談し調整をしている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	起床時、毎食時、入床前に口腔ケアを促している。困難な方にはコットンによる口腔ケアをスタッフがサポートしている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量の確認をし記録に落とししている。一人一人に合った食事を提供し、果物やゼリー等でも水分の確保をしている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	トイレ、外出時の手洗いうがいを行っている。共用部、トイレはオスバンで消毒している。インフルエンザについてはスタッフ、入居者共に予防接種を受けている。加湿器を設置し、湿度調整を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	週一回、冷蔵庫の掃除を行っている。まな板、三角コーナー、包丁は夜間帯で除菌している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	夏は花を植えたり冬は雪だるまやイルミネーションを使用し季節にあった雰囲気を出す工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	音楽を流したり、ビデオ鑑賞をしたりしてみんなが楽しめるような空間作りをしている。季節ごとに共用部の壁に飾りや写真を貼っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用部は過ごしやすい雰囲気になっている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	御家族とも相談し、馴染みのものを用意してもらい、本人にとって過ごしやすい空間を作っている。又、不要な物等は持ち帰ってもらっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	居室の換気を行っている。気になる臭いは芳香剤で対応している。特に冬場の温度には気を配り調整している。加湿器の設置もしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人一人の身体機能にあった環境作りを話し合い、安心、安全で、出来るだけ自立した生活が送れるよう取り組んでいる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	毎朝のカンファで話し合い対応策を考えている。その人に合ったケアが出来るよう努めている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	夏季はユニット内の目標にも上げ、天気の良い日は散歩や日光浴に出掛けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------------------------	---------------------------------

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない ②
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない ①
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ③

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p> <p>②</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>①</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>①</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>①</p>

常に、色々な事にチャレンジしている。行事だったり、外出支援だったり。又、スタッフはスキルアップのために、順次研修会に参加し入居者により良いサポートが出きる様努力している。